

## 2024\_0408「ムササビの子育て（写真）」日々の理科 3532号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

ムササビは、1年に2回、早春と初秋に営巣して子どもを育てます。大きな樹木の樹洞（うろ）などに枯草を運び込んで、そこで子どもを産み授乳して育てます。私の北軽井沢の山荘の裏庭のカラムツの木には、フクロウ用の巣箱が架けてあり、中のカメラの映像はインターネット経由で観察できるようになっています。2023年の春にはフクロウが営巣に成功し、無事に3羽のひなが巣立ちました。

しかし、フクロウもムササビもかなりの住宅難のようで、この巣箱は大変な人気を博しています。今年の春はムササビが営巣を始め、3月下旬に2匹の子を出産しました。ムササビの母親は、せっかく出産しても居心地が悪いと、子連れ出して別の場所に移ってしまったり、子だけ残して数日で「育児放棄」してしまうこともあります。しかし今回は一週間たってもしっかりと授乳を続けているので、大丈夫でしょう。

写真は、出産数日後の子の様子です。夜間に母親が食事のために外に行っている間だけ、子の子供の様子がわかります。この写真からもう1週間経ちましたが、子はまだ丸まった状態で、ヤマネの冬眠のように見えます。尚、現在の巣箱の中の様子は YouTube で生中継配信していますので、ご覧ください。過去12時間の映像も見られます。母親が外に出ていて子の観察ができるのは、19～21時頃と、深夜の1～2時頃が多いです。(YouTubeの動画を巻き戻してご覧ください)

<https://www.youtube.com/watch?v=aJbqp41Xpo>

